

FAcoat RALLY MONGOLIA 2025 ENTRY GUIDANCE



1. ルート

「ラリーモンゴリアの聖地ゾーモットへいくのだ」

このラリーの黎明のころ 1998 年だったか、われわれは南ゴビにルートを伸ばそうとしていた。ロジスティクスも困難な地の果てのようなところ。試走チームはカレ川を抜け大平原に出た。遮るものもない褐色の大地が広がっていた。ところが右手遠くに霧のようなものが見えた。蜃気楼か。「いや。まさか森？」そう思いながらステアリングを右に切った。驚くかもしれないが1本の轍さえない。しばらく行くと森があった。小さな井戸には清冽な水がわき、森の木々は数百年の風雪を超えている風情だった。それ以来、ラリーモンゴリアはしばしばこの地をビバークにした。ガストン・ライエやレイモンド・ロワゾーモ楽しそうに過ごした。2025 年「The CLASSIC」を標榜するわれわれは、再びこの地を目指すこととした。問題はケイタリングとガスの補給だ。それでもこの地に行く。恐竜の谷も、気の遠くなるような大平原も、そうそうスガワラ峠さえ越えようと考えているのだ



1-1 Route book and timing chart

ルートは最終的に 2025 年 5～6 月に 1 ヶ月間にわたりに行われる最終試走にて決定される。ルートは最長でも 4000km を越えることはない。決定されたルートはルートブックとして印刷製本され、可能な限り早く参加者の手許に届ける。

ルートブックと同時にラリータイミングチャート、ルートインフォメーションなどが支給されラリーの進行についての概要を把握することが出来る。

タイミングチャート

ここでは毎日のラリーの距離、スタート時刻や CP の位置などが記載されていて、大きな変更がない限りこの計画の通り進む。

1-2 ブリーフィング

ラリーでは毎朝スタート前 30 分に大会本部前またはレストラン前でブリーフィングが行われる。レストランがあるビバークではレストラン内で行われる。

その日のルートのコンディションなどの注意箇所など大切な注意事項が伝達されるので必ず参加すること。日本語、英語、モンゴル語などで行われる。ブリーフィングはコースディレクターである山田徹が行う。こうした情報は大会本部前の掲示板にリザルトなどと共に貼り出される。

2. 燃料と給油

2-1 原則

この大会では原則として、ラリーのルート上に示されたりエゾン区間にあるガソリンスタンドで競技者各自が自身の負担においてガソリン、オイルなどを給油する。

2-2 品質

燃料は基本ロシア製であり、手に入れることのできるガソリンは A-92(レギュラーガソリン相当)または A-80 がある。最近は大きな町では A-95(ハイオクガソリン相当)も入手可能である。ディーゼルは国内で夏用軽油は 1 種類しかない。

2-3 航続距離

航続距離は原則として AUTO・MOTO 部門とも 280km+10%を要求している。したがって 1 日の SS 最長距離は 560km までである。どのエタップでも 280km+10%以内に燃料が供給でき給油施設が用意されている。ただし 15%程度のセーフティマージンをとること。



3. 水とランチパック

3-1 水の携行量

この大会ではエタップごとに最低必要な水の量が定められていて参加者は必ずこれ以上の水を持ってスタートしなければならない。



3-2 ランチパック

毎朝スタート前に、水のペットボトルと共にランチパックを受け取る。ランチパックには塩分の補給やエネルギー補給に役に立つ高機能食が含まれているので、必ずこれを持ち各自で用意した非常食は真の非常事態まで消費してはならない。

3-3 ランチパックのごみの回収

ランチパックのごみは必ず全て持ち帰ること。翌日のランチパックは前日のごみの回収が条件であり、ごみを持ち帰らなかったものにはランチパックが支給されない場合がある。

4. 安全

4-1 大会の安全のため参加する者にはエマージェンシーのマニュアル「The TRIPLE CAUTION for your Life」が支給される。

4-2 医療

2 から 3 名の医師が大会中をカバーする。オンコース上でメディカルカーに乗車し中盤及び後方から進行している。大会本部横にはメディカルテントが用意されていて、手術用具なども用意されている。チーフドクターは非常に高名な救急救命医である。

4-3 搜索

参加者は決められたルートを走行しなければならないが、万一コースを外れて復帰が困難な場合、またルートを外れて負傷する場合などのリスクが考えられる。そのため主催者と緊急連絡をするためのイリジウム携帯電話の所持が義務付けられている。

4-4 救助と移送

緊急を要する場合は、主催者はヘリにて直ちに回収しウランバートルまで空路輸送をする。この際にウランバートルの病院の手配を行い同時に状況に応じ帰国便の手配を行う。



5. 車両の改造と主催者によるアシスタンス

5-1 FIA/FIM の規定に順ずる。特に安全にかかる項目は絶対である。

5-2 必要な装備

AUTO・MOTO とも確実な距離を測るシステム、単位は 10m 単位。ルートブックには 123.45km というふうに km で小数点以下 2 桁までが表示される。MOTO 部門では ICO など、AUTO 部門ではテラトリップなどが推奨される。また MOTO 部門ではルートブックホルダーが必須であり、取り付けに関しても視線の移動を少なくするなど専門的な技術が求められる。両部門とも火災のリスクを抑えるため燃料ホースなどの固定に関しては十分な対策が必要。もっとも好ましいものはエアロクイップタイプのコネクティングシステム。ホースバンドの場合は金属製のバンドを W でかけなければならない。またバッテリーは不燃材で隔壁を作ることなどが求められる。

MOTO 部門では、ネックブレイスの着用が義務付けられています。MOTO 部門では、灯火及び安全装置として、ヘッドライト、テールランプ、ブレーキランプ、後部に充分なリフレクター、ホーン、バックミラーが必要です。エクストラ ストップランプ、ダストランプ、ウインカーは不要です。

●GPS

GPS は主催者からのデータのダウンロードサービスは行われませんが事前に入手することが可能。各自で入力しておくことを奨める。

全ての参加者は、ゴール後ただちに GPS のログの提出を求められる。GPS のログの提出ができない状況であった場合、いかなるケースであっても一定のペナルティが課される。

上位の車両は、SSER が供給する GPS データロガーの所持が義務づけられる。

●SPOT

この大会に初出場する参加者及び、主催者が指定する参加者は SPOT 等（衛星位置情報端末）の携帯を義務付ける。参加者が個人で購入し所有又はレンタルしなければならない。

●映像記録装置（ドライブレコーダー等）

事故発生時の状況を記録する為、車載型のドライビングレコーダー（Driving Recorder）及び、ヘルメットなどに取り付けるウェアラブルカメラ（wearable camera）の使用を推奨します。



5-3. 主催者によるアシスタンス

●ダッフルバッグ輸送システム

●ダッフルバッグ輸送システム

毎日のビバークからビバークへのダッフルバッグ輸送システムは、一人当たり 30kg の荷物を主催者が輸送します。これを超えるものは有償で輸送される。

ラリーで使用する SSER オリジナルの今大会ロゴ入り 20kg+10kg の 2 つのバッグを配布するので必ずそれを使うこと。

ビバーク間の輸送は X-1 と呼ばれるゼッケンをつけたトラックが担当する。天候などコースの状況によっては到着が著しく遅れることが予想される。

モンゴルでは大幅にこれを早く到着させる方法が限られているという状況を認識してください。

●タイヤ輸送サービス

モーターサイクル部門では参加車両 1 台につき 4 本までのタイヤを主催者が無料で輸送する。そのうち 2 本までは、ホイールが組みつけてあっても良いが、そのほかに組みつけてあっても許される部品は、チューブとスプロケットまでとする。ブレーキディスクは取り付け不可。また、それらには十分な保護が必要。

オート部門では参加車両 1 台につき 2 本までのホイールが組みつけられたタイヤ。3 本目からの輸送は有料となり 1 本につき 20,000 円（税込）が必要。受け取れるビバークは輸送隊の編成上、最終的に案内するのは大会直前となる。

●ビバーク

2025 年度は、全ての参加者は、シュラフ、テント、食器の装備が義務付けられる。

●ビバークでのサービス

ビバークには発電機・エアコンプレッサー・溶接機が用意されている。

●衛星携帯電話の義務付け

参加者は緊急通信手段としてのイリジウム携帯電話の携帯が義務付けられる。



6. 現地へのアクセス

6-1 国際貨物輸送

モンゴルへのアクセスは陸路のみに限定され非常に混雑し、かつ関税などを含めその手続きは困難である。この大会へ車両などを各自の手配で送るものは ATA カルネを使用することを強く勧める。

[Mongolian Consignee]

MONGOLIAN AUTOMOBILE MOTORCYCLE FEDERATION

MR. D.Ochirsukh

Mongolia Ulaanbaatar Khanuul Duureg Chinggis

Avenue Olimpic House 1F. #118

zip code 14210

TEL +976-99909473

[Mongolian Shipping Company]

TUUSHIN CO.,LTD. SALES DIVISION

MR.L.BAYARSAIKHAN

Prime Minister Amar's Str.2, Ulaanbaatar 210620.

Mongolia

TEL +976-11-320064,312092/322800,325510

E-mail: bayaraa@tuushin.mn

6-2 帰国貨物

ATA カルネを使った場合、入国時の貨物と帰国時の貨物のリストが完全にマッチングしていなければならない。このため消耗したタイヤも必ず持ち帰ることとなる。また帰国貨物にお土産などを追加して混入しないように気をつける。食料品、油脂類などは、帰国時の貨物から取り除くこと。

6-3 参加者の航空便などの手配

この国はアクセスが非常に限られ、ラリーのある夏の繁忙期は航空機の手配に難航することが予想されるので、早めに手配をすることを強く勧める。



さあ、
素晴らしいラリーモンゴリアの世界へ。

